

The logo for azbil, featuring the word "azbil" in a bold, red, lowercase sans-serif font.

人を中心としたオートメーション

アズビル株式会社 証券コード: 6845(東証1部)

2014年度(2015年3月期)

第3四半期決算 補足説明資料

目次

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績
2. 2014年度通期 連結業績計画
→直近の公表から修正なし
3. 株主の皆様への利益還元
→直近の公表から修正なし

2015年2月4日

注記事項



- 1) 金額は表示単位未満切り捨てで記載しています。
- 2) 次の通りセグメント名称を略称で記載しています。
 B A: ビルディングオートメーション
 A A: アドバンスオートメーション
 L A: ライフオートメーション
- 3) 各セグメント別の金額には、セグメント間の内部取引が含まれています。
- 4) 業績計画は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。
- 5) 新規連結会社の状況は次の通りとなっています(それぞれ特定子会社の異動には該当していません)。

新規連結会社	2013年度	2014年度				連結の理由
	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	
① アズビルプロダクションタイランド株式会社						重要性増大
② アズビルサウジアラビア有限会社		※ ●	●			重要性増大

●: B/S連結

※ 同時に新規連結時点における受注残高を受注高に計上しています。

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績 経営成績



<対前年同期>

- 受注高、売上高は、BA事業*及びAA事業が着実に伸長し、全体として増加。LA事業は海外での事業環境の悪化等により減少。
- 営業利益は、研究開発費や基幹システムの更新に係る費用の増加等があったものの、増収及び原価改善の取り組み効果等により大幅に増加。

[単位：億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	※ 2,082	1,958	※ +123	+6.3
売上高	1,765	1,696	+69	+4.1
国内	1,441	1,369	+71	+5.2
海外	324	326	△2	△0.7
売上総利益	612	574	+38	+6.7
%	34.7	33.9	+0.9P	
販売費及び一般管理費 (内のれん償却額)	547 (14)	533 (14)	+13 (+0)	+2.5
営業利益	65	40	+25	+62.8
%	3.7	2.4	+1.3P	
経常利益	86	50	+36	+72.2
税金等調整前当期純利益	60	53	+6	+12.9
当期純利益	40	26	+14	+53.4
%	2.3	1.6	+0.7P	

※ 契約期間が複数年となる大型のサービス案件の更新(総額約76億円)を受注高に含めています。

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別業績 - BA事業

<対前年同期>

- 受注高は、景気回復や電力料金値上げによる省エネ需要の拡大により、国内市場が好調に推移したことに加えて、市場化テスト分野において複数年におよぶ大型サービス契約の更新※があり大幅に増加。売上高も国内市場の好調を背景に増加。
- セグメント利益は、国内市場における新設の伸びに加えて、採算性の良い既設・サービスの分野が増収となったこと及び、施工収益改善の取組み効果等により大幅に増加。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
■ BA事業 受注高	※ 1,006	868	※ +137	+15.8
売上高	750	705	+45	+6.4
セグメント利益	53	33	+19	+58.1
%	7.1	4.8	+2.3P	

(ご参考) のれん償却額	1	1	+0	
--------------	---	---	----	--

※ 契約期間が複数年となる大型のサービス案件の更新(総額約76億円)を受注高に含めています。

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別業績 - AA事業



<対前年同期>

- 受注高は、国内装置メーカー向け制御機器分野で市況改善と大型案件の受注があったことに加え、海外における事業の順調な拡大と新規連結の影響により、着実に増加。売上高も、国内外の装置メーカー向け制御機器分野における販売増を中心に、全体として増加。
- セグメント利益は、増収効果により大きく増加。

[単位：億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
■ AA事業 受注高	729	703	+26	+3.8
売上高	668	637	+30	+4.8
セグメント利益	29	14	+14	+99.0
%	4.4	2.3	+2.1P	

(ご参考) のれん償却額	2	2	+0	
--------------	---	---	----	--

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別業績 - LA事業



<対前年同期>

- 受注高、売上高は、新興国における景気減速や競争激化等、厳しい事業環境が続くライフサイエンスエンジニアリング(LSE)分野における減少を主因に、全体として減少。但し、足元では抜本的な事業構造変革の進行により改善の兆しが見られる。
- セグメント損失は、減収及び採算性の厳しい案件の影響等によるLSE分野での減益を主因に拡大。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
■ LA事業 受注高	359	399	△40	△10.2
売上高	356	361	△4	△1.3
セグメント利益 (△は損失)	△17	△8	△8	-
%	△4.8	△2.3	-	

(ご参考) のれん償却額	10	10	△0	
--------------	----	----	----	--

【補足】

LSE分野の事業構造変革の進捗

(ライフサイエンスエンジニアリング)

■ LSE分野の中核を担うアズビルテルスターの抜本的な事業構造変革と統廃合等による体質強化施策を強力に推進中。

LSE分野
事業の狙いと
経緯

- グローバルに成長が見込める医薬品製造、研究や高機能食品製造市場に向けた、製造プロセスとオートメーションを融合した新たな分野をLA事業内に設定。
- 医薬品製造プロセスに知見を持ち、同分野に接点を持つ現アズビルテルスターをLSE事業の核として買収。
- 2014年度、新興国における経済成長鈍化の影響による受注減少、競争激化による採算性の悪化、事業・領域拡大を先行させた結果による組織構造の問題を背景に損失を計上。業績回復に向けた抜本的施策に着手・展開。

LSE分野の中核アズビルテルスターの事業体質の強化策を年度内に進め、2015年度の業績回復を確実なものとする

2014年度
第3四半期
施策進捗
状況

- **事業再編と地域での統合による体制整備**
 - ✓ EPC(建設)事業構造改革(欧州、南米)
 - ✓ 不採算子会社清算(欧州、南米)
 - ✓ 事業統合・拠点統合による人員削減・管理コストの抜本的な低減(欧州、南米、北米、中国)
- **製薬向け製造装置事業(コア事業)の強化**
 - ✓ アズビル技術開発部門との連携による装置事業の技術・製品の強化に着手
- **ジョブ管理の徹底による収益性の確保**
 - ✓ アズビルから要員を派遣し、提案から設計・生産・納入・保守までの一貫事業構造として管理レベルを向上



アズビルテルスターにおける上記体質強化策の実施に伴い、事業再編損(約4億円)、のれんの減損(約17億円)を当第3四半期に計上。また、同社出資金の20%分を追加取得。現状を踏まえて計画を見直すのが、製薬製造市場の成長性は今後も大きく、同社の事業見通しを修正するものではない。

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績 営業外・特別損益・法人税等

＜対前年同期＞

- 円安進行に伴う為替差益の増加(約10億円)により営業外収益が増加。
- 中期経営計画に沿った事業構造の見直し、再構築過程で特別損失を計上及び、税金費用が減少※。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
営業利益	65	40	+25	+62.8
営業外収益	25	14	+11	+75.5
営業外費用	5	4	+0	+3.7
経常利益	86	50	+36	+72.2
特別利益	1	5	△4	△77.4
特別損失	27	2	+25	+1,141.7
税金等調整前当期純利益	60	53	+6	+12.9
法人税等	18	27	△9	△33.2
少数株主損益	1	△0	+2	-
当期純利益	40	26	+14	+53.4

※ 主たる要因について

● LSE分野の事業構造変革

前述のアズビルテルスターの抜本的な事業構造変革・体質強化の過程において当第3四半期に特別損失(事業再編損(約4億円)、のれん減損(約17億円))等を計上しています。

● リアルタイム細菌検出領域の事業性見直し・再構築

米国子会社アズビルバイオビザンツが推進してきたリアルタイム細菌検出技術について、その技術をグループ本体に移し、対象市場の拡大、新たな事業機会の開発を図ることと致しました。これに伴い同社を清算いたします。なお、本変更に伴う受注・売上・利益に対する影響は軽微ですが、この過程において当第3四半期で税金費用が減少しています。

注: [健康福祉・介護分野の事業譲渡] (第3四半期決算における後発事象)

なお、2015年2月4日に健康福祉・介護分野でサービスを提供してきたアズビルあんしんケアサポートの全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡し、健康福祉・介護分野の事業から撤退いたします。これにより第4四半期に計上するその他諸経費を含めた譲渡益につきましては現在確認中です。

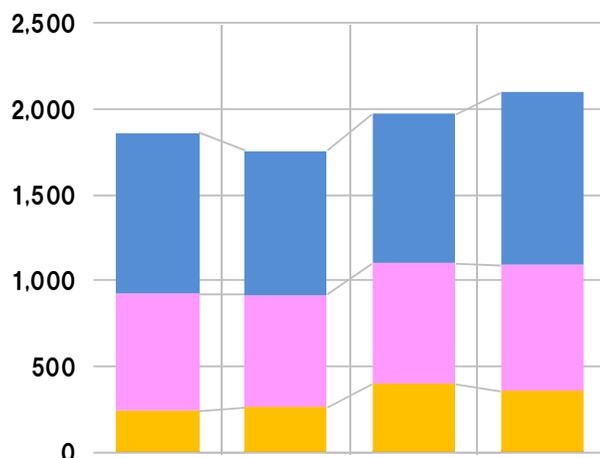
1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績

[参考] セグメント別受注高 同期比較・四半期推移



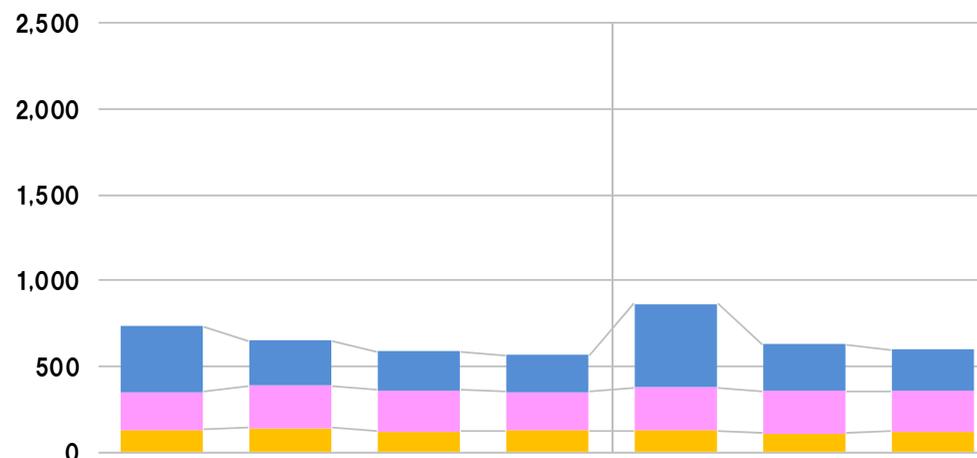
[単位: 億円]

■ 同期比較



年度	2011 3Q累計	2012 3Q累計	2013 3Q累計	2014 3Q累計
■ BA事業	※ 939	839	868	※1,006
■ AA事業	681	653	703	729
■ LA事業	241	261	399	359
連結	1,848	1,744	1,958	2,082

■ 四半期推移



年度	2013 1Q	2Q	3Q	4Q	2014 1Q	2Q	3Q
■ BA事業	380	264	224	215	※ 486	275	243
■ AA事業	219	246	237	227	252	242	234
■ LA事業	134	141	123	126	124	113	120
連結	730	646	582	565	860	626	594

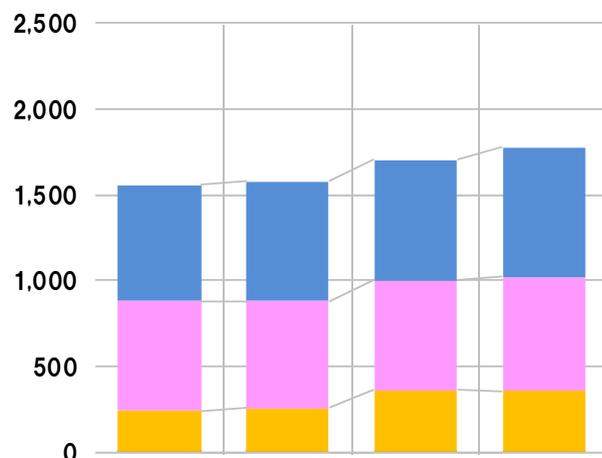
※ 契約期間が複数年となる大型のサービス案件を複数受注し、その複数年分の契約額を一括計上しています。

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績 [参考] セグメント別売上高 同期比較・四半期推移



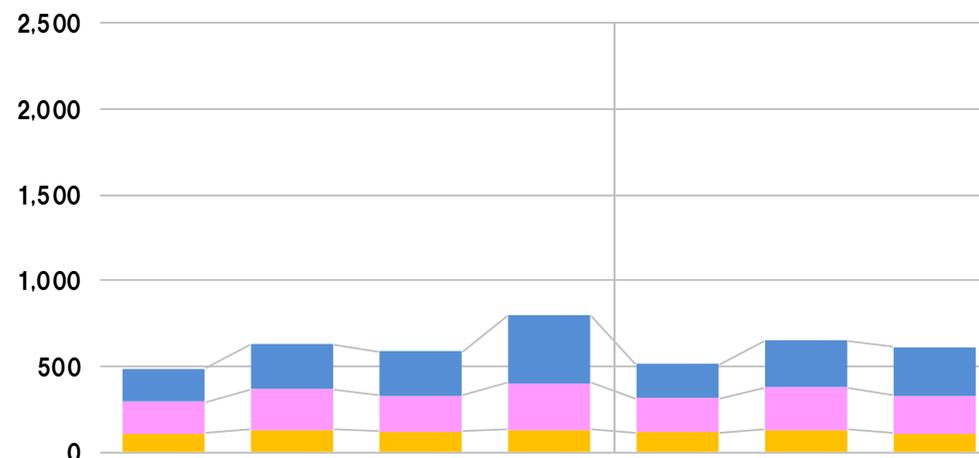
[単位: 億円]

■ 同期比較



年度	2011 3Q累計	2012 3Q累計	2013 3Q累計	2014 3Q累計
■ BA事業	679	698	705	750
■ AA事業	639	623	637	668
■ LA事業	240	258	361	356
連結	1,548	1,570	1,696	1,765

■ 四半期推移



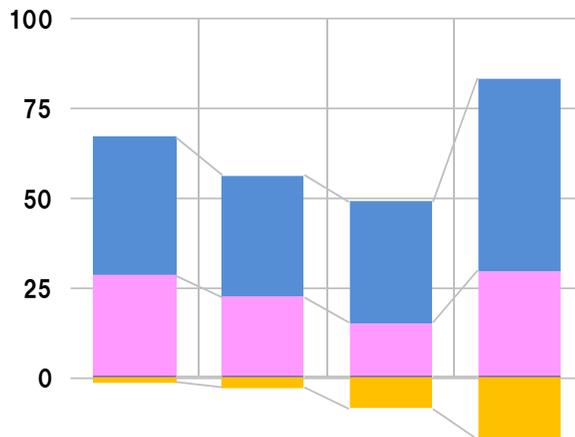
年度	2013				2014		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ BA事業	191	259	254	390	197	269	283
■ AA事業	186	237	213	270	198	249	219
■ LA事業	109	132	119	134	117	130	109
連結	485	627	583	787	510	646	608

※ azbilグループの売上高は、第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の利益は、他の四半期連結会計期間に比べ低くなる傾向があります。

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績 [参考] セグメント利益(営業利益) 同期比較・四半期推移

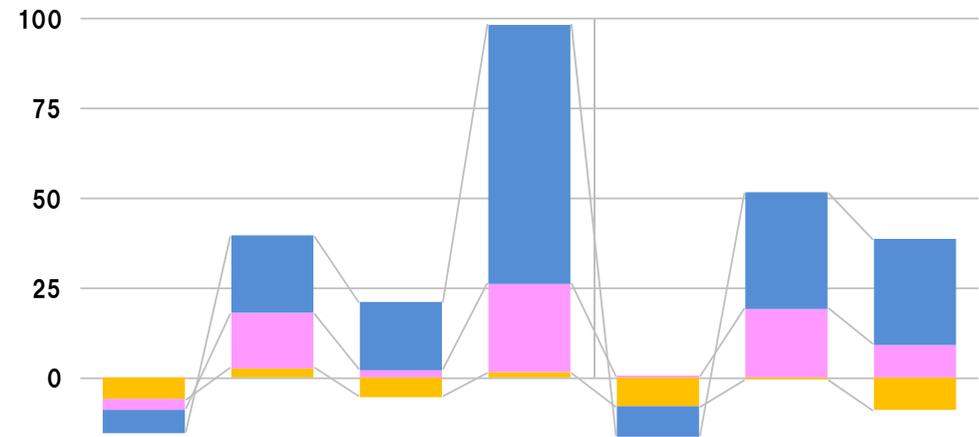
[単位: 億円]

■ 同期比較



年度	2011 3Q累計	2012 3Q累計	2013 3Q累計	2014 3Q累計
■ BA事業	38	33	33	53
■ AA事業	27	21	14	29
■ LA事業	△1	△2	△8	△17
連結	65	53	40	65

■ 四半期推移



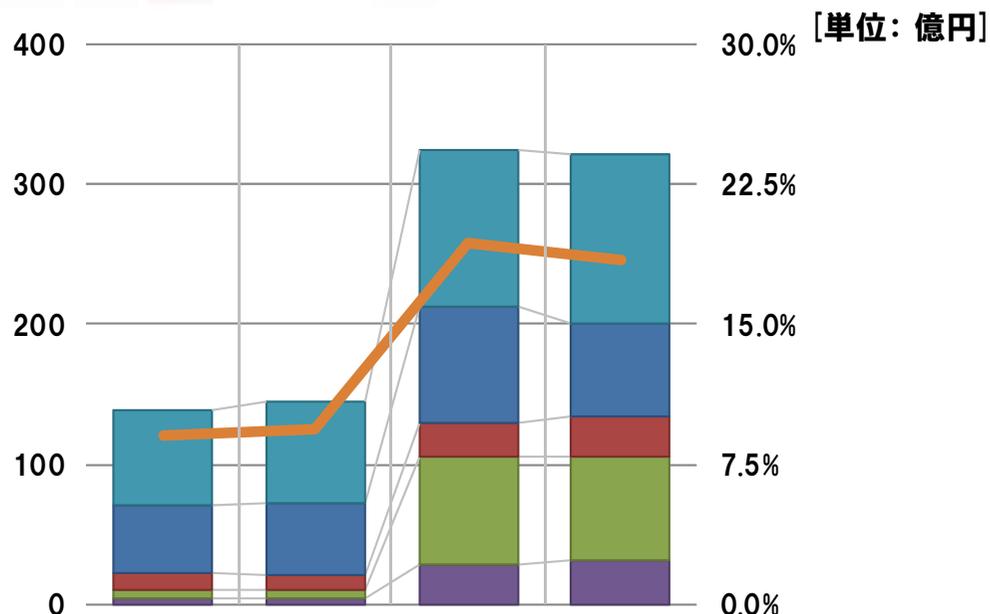
年度	2013				2014		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ BA事業	△6	21	18	72	△8	32	29
■ AA事業	△2	15	2	24	0	19	9
■ LA事業	△5	2	△5	1	△7	△0	△8
連結	△15	39	15	98	△15	51	29

※ azbilグループの売上高は、第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の利益は、他の四半期連結会計期間に比べ低くなる傾向があります。

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績 海外地域別売上高 同期比較

海外売上高は、事業環境が悪化したセグメントや地域・国があったものの、その他においては着実に事業が伸長し、全体としては前年同期並。

- アジア地域では、政情不安の影響等からタイなど一部の国で減収となったが、全体として売上高は着実に伸長。
- 中国では、不動産市場減速の影響等からBA事業が減収。LA事業も減収となり、中国全体の売上高は減少。
- 北米は、AA事業の装置メーカー向けソリューションを中心に伸長。
- 欧州では、AA事業が堅調だったものの、LA事業で減収となり、全体として売上高は減少。



年度	2011 3Q累計	2012 3Q累計	2013 3Q累計	2014 3Q累計
■ アジア	67	73	111	121
■ 中国	48	51	83	67
■ 北米	13	11	24	28
■ 欧州	6	5	78	75
■ その他	4	5	28	31
連結	139	147	326	324

(ご参考)

— 海外売上高%	9.0%	9.4%	19.3%	18.4%
期中平均レート(USD)	80.59	79.40	96.84	102.94
期中平均レート(EUR)	113.38	101.73	127.48	139.50

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。
 ※ 現地法人の事業年度につきましては、主に12月31日を期末日とする年度を採用しております。

1. 2014年度第3四半期累計期間 連結業績 財政状態



- **資産** 受注増加に伴い棚卸資産が増加したものの、法人税等の支払、賞与の支給等により現金及び預金が減少、売上債権も減少したことにより全体として前年度末比63億円減少。
- **負債** 退職給付会計基準の変更等により退職給付に係る負債が減少したことに加え、法人税等の支払による未払法人税等の減少、及び賞与の支給により賞与引当金が減少したこと等により全体として前年度末比125億円減少。
- **純資産** 配当金の支払があったものの、四半期純利益の計上及び退職給付会計基準の変更に伴い利益剰余金が増加し、加えて、その他有価証券評価差額金が増加したことにより、全体として前年度末比62億円増加。

[単位: 億円]

	当期末	前年度末	対前年度末 増減		当期末	前年度末	対前年度末 増減
	(A)	(B)	(A) - (B)		(A)	(B)	(A) - (B)
流動資産	1,812	1,893	△ 81	負債	958	1,084	△ 125
現金及び預金	464	524	△ 59	流動負債	820	873	△ 52
受取手形及び売掛金	827	882	△ 54	仕入債務	388	414	△ 25
棚卸資産	244	181	+62	短期借入金・社債	162	154	+8
その他	274	305	△ 31	その他	269	304	△ 34
固定資産	658	640	+18	固定負債	137	211	△ 73
有形固定資産	252	245	+7	長期借入金・社債	16	22	△ 6
無形固定資産	125	129	△ 3	その他	121	188	△ 66
投資その他の資産	280	266	+14	純資産	1,512	1,449	+62
				株主資本	1,435	1,393	+41
				資本金	105	105	-
				資本剰余金	171	171	+0
				利益剰余金	1,184	1,142	+41
				自己株式	△ 26	△ 26	△ 0
				その他の包括利益累計額	58	39	+18
				新株予約権・少数株主持分	18	16	+2
資産合計	2,470	2,534	△ 63	負債純資産合計	2,470	2,534	△ 63

(ご参考) 自己資本比率: 当期末 60.4%、前年度末 56.5%

2. 2014年度通期 連結業績計画

→直近の公表から修正なし

2. 2014年度通期 連結業績計画 業績計画



- 当第3四半期における連結業績は、事業により収益の進捗に差異はあるものの、全体として計画の範囲で推移しており、2014年10月30日に公表した値を据え置く。

[単位：億円]

	当年度		前年度	対前年度	
	3Q累計	通期計画		増減	増減%
		(2014/10/30)			
売上高	1,765	2,550	2,484	+65	+2.7
営業利益	65	150	139	+10	+7.9
%	3.7	5.9	5.6	+0.3P	
経常利益	86	153	145	+7	+4.8
当期純利益	40	85	76	+8	+10.8
%	2.3	3.3	3.1	+0.2P	

※ azbilグループの売上高は、第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の利益は、他の四半期連結会計期間に比べ低くなる傾向があります。

2. 2014年度通期 連結業績計画 セグメント別計画

[単位: 億円]

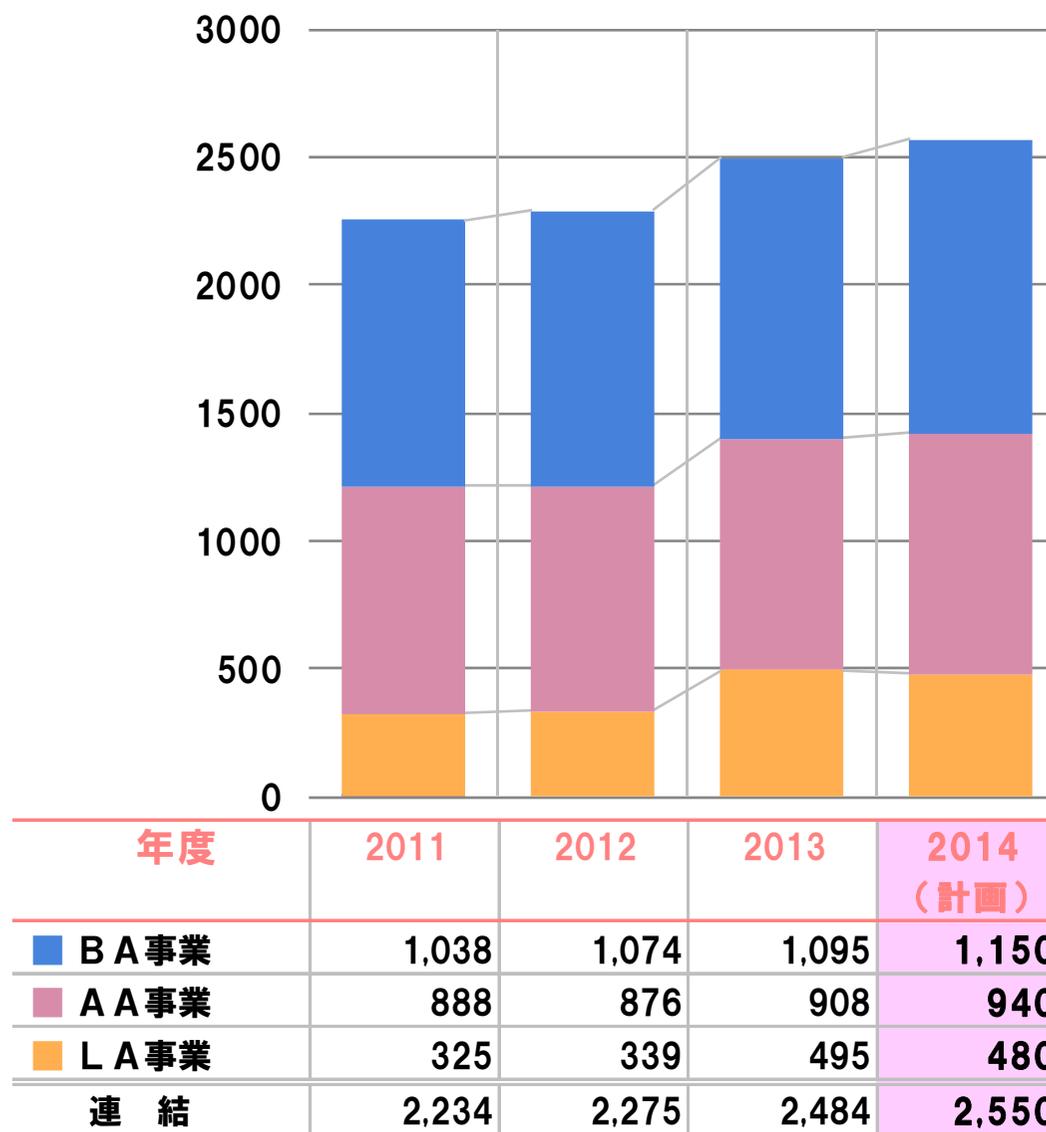
	当年度		前年度	対前年度		
	3Q累計	通期計画		増減	増減%	
		(2014/10/30)				
■ B A事業	売上高	750	1,150	1,095	+54	+5.0
	セグメント利益	53	118	105	+12	+11.4
	%	7.1	10.3	9.7	+0.6P	
■ A A事業	売上高	668	940	908	+31	+3.5
	セグメント利益	29	47	39	+7	+18.5
	%	4.4	5.0	4.4	+0.6P	
■ L A事業	売上高	356	480	495	△15	△3.2
	セグメント利益	△17	△15	△6	△8	-
	%	△4.8	△3.1	△1.4	-	
連結	売上高	1,765	2,550	2,484	+65	+2.7
	営業利益	65	150	139	+10	+7.9
	%	3.7	5.9	5.6	+0.3P	

※ azbilグループの売上高は、第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の利益は、他の四半期連結会計期間に比べ低くなる傾向があります。

2. 2014年度通期 連結業績計画 [参考] セグメント別売上高 推移

azbil

[単位: 億円]

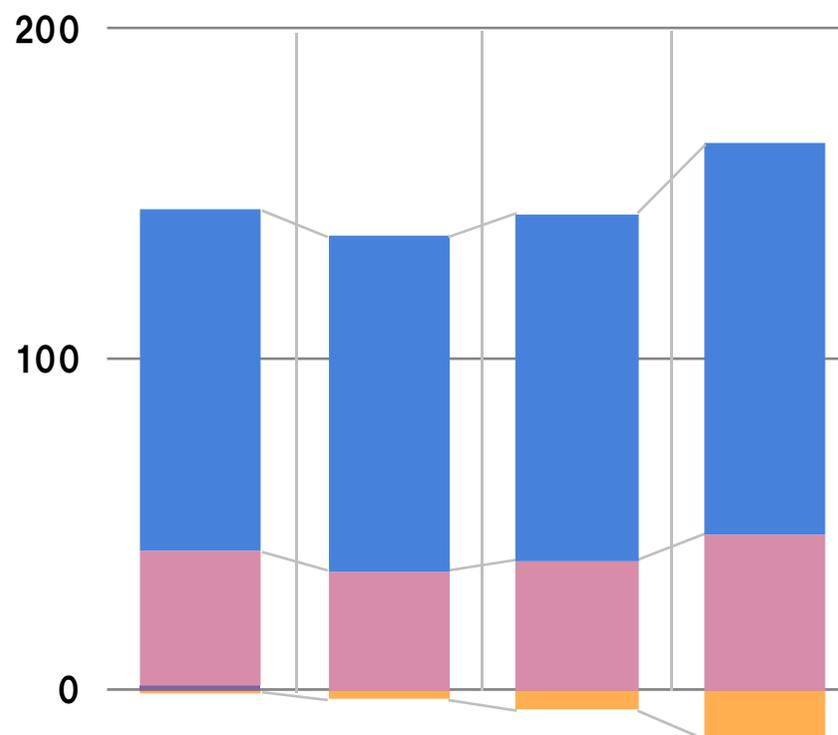


2. 2014年度通期 連結業績計画

[参考] セグメント利益(営業利益) 推移



[単位: 億円]



年度	2011	2012	2013	2014 (計画)
■ BA事業	103	101	105	118
■ AA事業	41	36	39	47
■ LA事業	△ 1	△ 3	△ 6	△ 15
連結	143	134	139	150

3. 株主の皆様への利益還元

→直近の公表から修正なし

3. 株主の皆様への利益還元 配当金



- 株主の皆様への利益還元を重視し、連結業績、自己資本当期純利益率・純資産配当率の水準向上に努めつつ、安定した配当を維持する。
- 当年度の期末配当は、第3四半期累計期間における連結業績が計画の範囲内で推移していることから、2014年5月12日公表の以下計画を据え置く。

	2013年度		2014年度	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金 [円]	31.5	31.5	31.5	31.5(計画)
配当性向	60.7%		54.7%	
純資産配当率 (DOE)	3.3%		3.2%	

(ご参考) 2014年度12月末時点 配当利回り 2.3%

補足資料

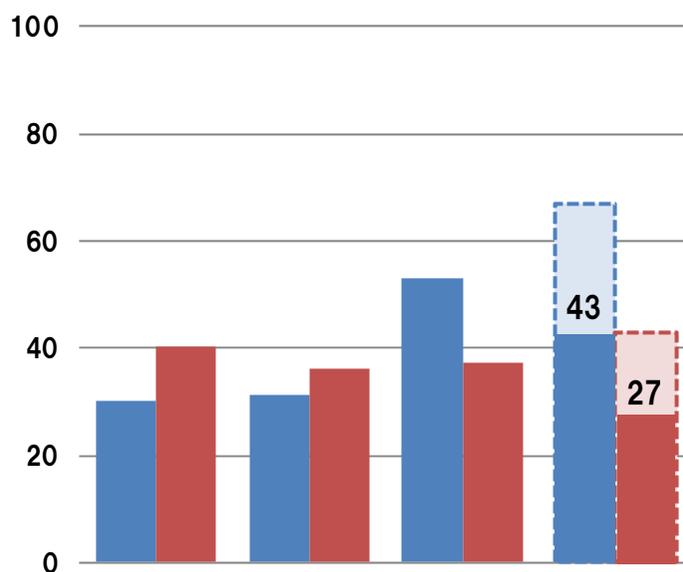
補足資料

設備投資・減価償却費／研究開発費



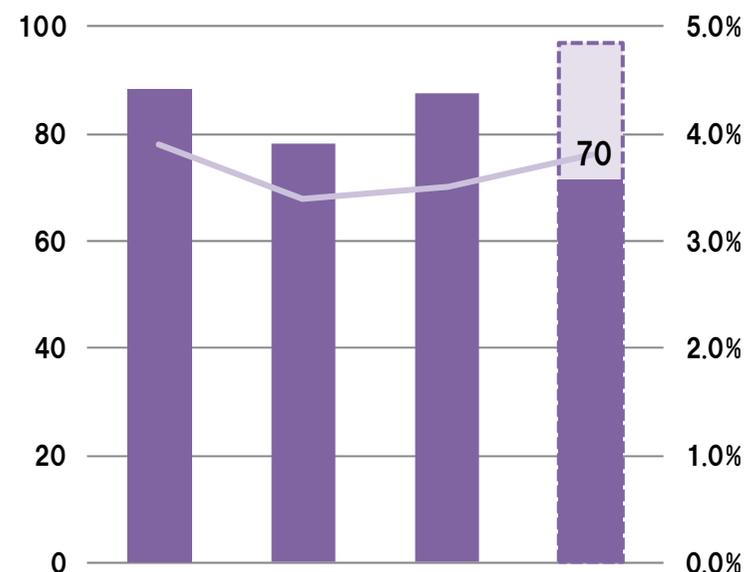
[単位：億円]

■ 設備投資・減価償却費

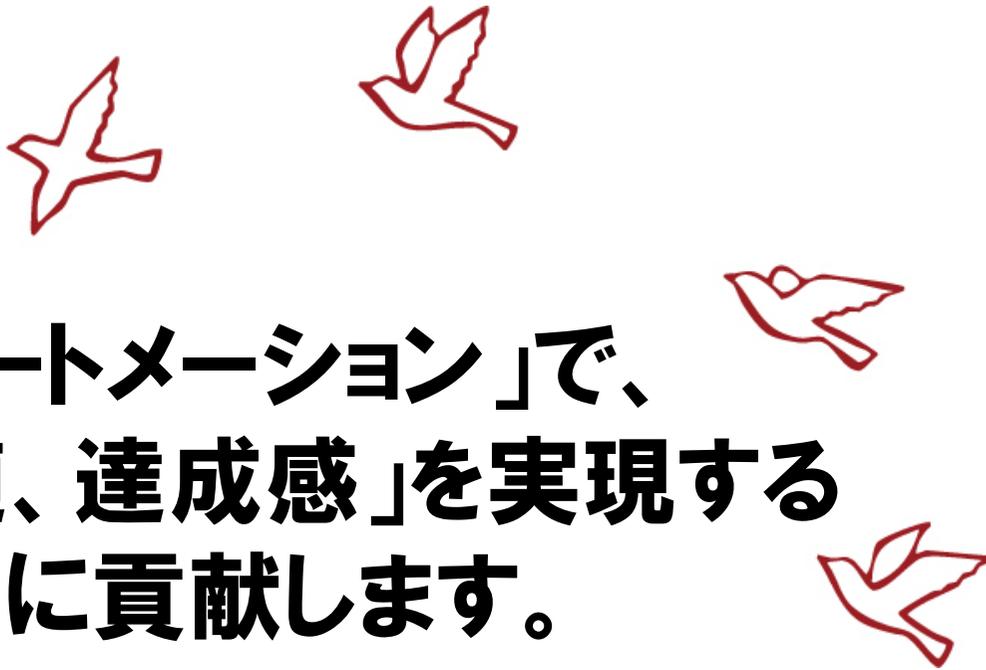


年度	2011	2012	2013	2014 (計画)
■ 設備投資	30	31	53	67
■ 減価償却費	40	36	37	43

■ 研究開発費・研究開発費率



	2011	2012	2013	2014 (計画)
■ 研究開発費	88	78	87	97
— 研究開発費率	3.9%	3.4%	3.5%	3.8%



azbilグループは、
「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心、快適、達成感」を実現する
とともに、地球環境に貢献します。

<お問い合わせ>

アズビル株式会社
グループ経営管理本部
IR室

電話: 03-6810-1031
メール: azbil-ir@azbil.com
URL: <http://www.azbil.com/jp/ir/>